平成 28 年 7 月 4 日　第 2464 号

営農NEWS

ナシにおける樹幹せん孔性害虫ヒメボクトウの防除法について

県内のナシやリンゴ産地において、樹幹せん孔性害虫ヒメボクトウによる被害が発生しています。被害をうけた樹では、幼虫が枝内部に食入して空洞化させるため、樹勢の低下や収量減となり、激しい場合は枯死することもあります。

ヒメボクトウの発生生態を知って、適切な防除に努めてください。

1　ヒメボクトウの発生生態

ヒメボクトウはチョウ目の害虫で、ボクトウガ科に属するガです。成虫は羽を広げると 4～6 ㎝あり、全身が灰色で鱗粉に覆われています。**成虫は 6 月中下旬頃から 8 月下旬頃まで発生し、7 月にピーク**となります。成虫の寿命は雄で 5～9 日、雌で 6～7 日と短いですが、その間に**樹皮の割れ目や枝の裂傷部に卵塊で産卵**します。ふ化した**幼虫は赤紫～赤褐色の芋虫で、集団で樹体内部にせん孔して生息**します。この集団せん孔は老熟幼虫まで続き、**蛹になるまで 2～3 年程度の期間を要する**と考えられています。樹体内部で蛹になり、食入した穴の入り口まで移動して羽化しますので、その抜け殻は半身を乗り出した格好で残されます。

2　被害状況

食入被害を受けた樹は、樹体内部が空洞化し、被害が激しくなると樹勢の低下や枯死する場合もあります。加害部位からは幼虫の糞や木くずが排出され、また、内部が食害されるために樹液がしみ出し、独特の悪臭を生じます。

3　防除対策

1）耕種的や物理的な対策

（1）被害のある枝はのこぎり等で切除し、そのまま放置せずに、粉砕するか焼却するなど適切に処分します。

（2）樹皮の隙間に産卵するため、冬季の粗皮削りは有効です。

（3）ヒメボクトウはヤナギやポプラにも寄生しますので、果樹園近くに植えられている場合には、成虫の飛来・侵入について特に注意しましょう。

2）薬剤による防除（農業総合センター普及に移す成果より）

（1）樹体内に食入しているヒメボクトウ幼虫に対して、**6 月上旬と 9 月中旬に天敵線虫殺虫剤（**有効成分：スタイナーネマ・カーポカプサエ、**商品名：バイオセーフ）**を虫糞や木くずの**排出孔を中心に、蓄圧式噴霧器を用いて内部の幼虫まで薬液が届くように滴るまで集中的に注入**します。なお、注入するにあたっては、虫糞や木くずは出来るだけ除去し、また、食害の進んだ内部の食入孔は複雑に入り組んでいるため、散布量の目安として被害枝あたり 200～800㎖程度として**十分量を丁寧に注入することが大切**です。天敵線虫はヒメボクトウに寄生し、虫体内で増殖して幼虫を死亡させます。

（2）ふ化した幼虫の樹体内への新たな食入を抑制するために、**7 月中旬～8 月上旬の間にフェニックスフロアブルを樹幹が十分濡れるように 10 アール当たり 200ℓ以上の薬液を散布**します。散布は、動力噴霧器（鉄砲噴口）を用いると効果的です。スピードスプレーヤ（ＳＳ）での散布では、薬液の付着むらが生じる可能性があるため、**薬液が樹幹にも十分量付着するように丁寧に散布する**ことが必要です。

（3）上記の（1）天敵線虫殺虫剤の樹体内注入と（2）フェニックスフロアブルの樹幹散布を体系防除することにより、より一層、ヒメボクトウの被害を軽減することができます。なお、ヒメボクトウの幼虫期間が複数年と長いことから、**被害を軽減させるためには防除を数年間継続して実施する**必要があります。

表 1　ナシおよびリンゴのヒメボクトウ防除薬剤（平成 28 年 7 月 4 日現在）

薬　剤　名	希釈倍率	使用時期　／　使用回数	備　考
フェニックスフロアブル	4,000 倍	収穫前日まで／ 2 回以内	
バイオセーフ	2500 万頭（約 10ｇ）／2.5～25ℓ	幼虫発生期　／ ―	木くず排出孔を中心にして薬液が滴るまで樹幹注入する

3）交信かく乱剤（ボクトウコンーＨ）のディスペンサーを、10a 当たり 100～150 本（16g／100 本製剤）、成虫の発生初期から終期まで、対象作物の枝などに挟み込み又は巻き付けて設置し、成虫の交尾を阻害します。なお、ヒメボクトウの生態から、3 年以上連続して処理するようにしましょう（平成 28 年 7 月 4 日現在）。

農薬使用の際は、必ずラベル及び登録変更に関するチラシ等の記載内容を確認し、飛散に注意して使用して下さい。

JA全農いばらき
生産資材部　営農企画課
電話：029-291-1012　FAX：029-291-1040